

今週のビルマのニュース 2010年10月22日【1039号】

「選挙監視団は不要、外国人記者も入れない」

・選挙管理委員会は18日、ネピドーで会見し、11月7日の総選挙投票日に際して国際選挙監視団は「必要ない」こと、外国人記者も受け入れないことを表明。投票日当日に駐在外交官や国連職員用の投票所視察ツアーを行うとのこと(19日APほか)。

報道の自由度、ビルマは下から5番目

・国境なき記者団が20日、2010年「報道の自由度」ランキングを発表。ビルマは178か国中174位。

国連特別報告者「選挙に深刻な欠陥」

・ミャンマーの人権状況に関する国連特別報告者キンタナ氏による報告書が19日に公表された。人道に対する罪が起きている疑いについて氏は「正義と責任追及は国連システムの根幹であり、ミャンマーで起きている犯罪について責任追及がなければ罪を犯している者を勇気づけてしまう」と述べ、国連の調査委員会設置を促した。氏は20日の国連総会第3委員会でも「選挙プロセスには深刻な欠陥がある」などと述べた(報告A/65/368、20日AFPほか)。

最高裁、スーチー氏の有罪判決を再審理へ

・民主化運動指導者アウンサンスーチー氏は昨年受けた有罪判決を不服として再審理を求めていたが、最高裁がこれを受審し、29日に審理を開くことになった。氏はこの判決により自宅軟禁下にあり、11月13日に拘束期限が切れるとされる(21日APほか)。

・アウンサンスーチー氏は、軟禁から解放されたらツイッターを始めて国内外の若い世代と話をしたいと語ったと、面会した弁護士が伝えた(18日AP)。

ビルマへの政府開発援助(ODA) 約束状況など 新たな発表はなし

注目の報告書・記事

・ビルマ医療協会(BMA)ら3団体が19日、ビルマ東部の紛争地域の保健・人権状況についての報告書を発表。同地域の子ども40%が栄養失調で、7人に1人は5歳未満で死亡。女性の14人に1人がマラリアに感染。住民の3分の1が過去1年間に強制労働等の人権侵害を受けており、これが健康状態にも影響を与えている。
報告書 Diagnosis: Critical <http://maetaoclinic.org/>

・「流血の記憶を語り伝えるミャンマーの僧侶 アシン・ターワラさん」(朝日新聞21日「ひと」)

イベント情報

・ビルマ僧アシンターワラ師の対話集会 in 名古屋
主催：日本ビルマ問題を考える会 大隅良務(名古屋市女性会館、23日18時～)

・アムネスティ創立40&50周年記念キャンドルキヤラバン in 水戸 ドキュメンタリー『ピュア ビルマ難民キャンプの子どもたち』上映・ココラット氏講演会 アムネスティ水戸グループ主催(水戸市あむねすみと2Fハンブルアカデミー、24日13時)

・デモ行進：非民主的なビルマ総選挙に対する抗議行動(仮題) 実施団体：ビルマ人2010年総選挙ボイコット委員会(在日ビルマ人民主化活動家のみなさん)、連合ほか(六本木・三河台公園、27日14時～集会・15時～デモ行進出発)

・『声なき難民の声をきく連続セミナー：日本社会をみつめる難民—今秋スタートする「第三国定住」を問う』アムネスティ・インターナショナル日本主催 第1回「第三国定住の功と罪—ビルマ難民の現況」講師：中尾恵子氏(日本ビルマ救援センター)、マ・テンテンウー氏(ビルマ難民)(31日14時～、専修大神田キャンパス7号館731教室)★要申込

・非民主的なビルマ総選挙に対する抗議行動 ビルマ人2010年総選挙ボイコット委員会(在日ビルマ大使館前、11月6日15～17時、7日9～16時)

・ビルマ市民フォーラム例会『ビルマ総選挙はいかに？現地最新情勢と解説(仮)』根本敬(上智大学教授)・ティンウィン(在日ビルマ市民労働組合代表)(南大塚地域文化創造館、11月13日18時～)

もっと詳しい情報は

きょうのビルマのニュース(平日毎日更新)
<http://www.burmainfo.org/news/today.php?mode=2>

Twitter公式アカウントはBurmaInfoJapan

ビルマ情報ネットワーク
<http://www.burmainfo.org>

お問い合わせ

ビルマ情報ネットワーク 秋元由紀
yuki@burmainfo.org 080-2006-0165